

商学部における特色ある学部教育の補助「見学調査」 報告書

テーマ	上野・神田・有楽町・新橋の横丁と再開発									
科目名	ベーシック演習									
担当教員	小田 悠生									
調査先	新橋・神田・上野									
調査日	2025年11月29日(土)									
参加学生数	1 年生	12 名	2 年生	名	3 年生	名	4 年生	名		

調査の趣旨（目的）

本ベーシック演習では春学期より、世界遺産、歴史の記憶、ツーリズムについて学んできた。秋学期は PBL形式のグループプロジェクトとして、関東各所の歴史について深く学ぶことのできる歴史ツアーを、日本語と英語の両方で企画・立案・実施するという課題に取り組んでいる。今回は「戦後闇市と都市再開発」をテーマとし、80年前の終戦後に東京中心部に点在した闇市、その名残りが現在の横丁・街並み形成や都市再開発計画とどのように連関しているのかについて見学調査を行う。

調査結果

新橋～有楽町、神田、御徒町～上野の駅周辺・ガード下の利用方法を中心に、終戦後の闇市の名残りとして繰り返される再開発の重層について調査した。新橋駅周辺は、汐留口と西口側が大きく街並みが異なり、後者ではビルの形状やガード下の飲食店に戦後の混乱期からの権利・区画整理が大きく影響していることがわかった。神田駅周辺は、ここ10年ほどで再開発・再開発計画が急速に進んでおり、かつてガード下に広がっていた小路は大きく様変わりしつつあることがわかった。御徒町～上野間のアメ横商店街は満州からの引き揚げ者が中心に市・協同組合を結成したことを起源とする。JR駅ビルは再開発が完了しているが、アメ横周辺に大きな区画変更は見られない。現在でも戦後直後から営業をつづける店舗も残る一方で、インバウンド観光客や海外からの新たな移民たちに向けたビジネスも次々とオープンしており、変化を続けながら活性化している商店街であることがわかった。



アメ横～終戦直後から営業する菓子店



新橋～かつては闇市が広がっていたSL広場



有楽町ガード下ー引き揚げ者の宿泊施設だった酒場